【建物改修の省エネルギー対策について】

2026年10月29日

ENEGREEN
engineering lab



本日のプログラム

- **省エネルギー対策について**
  - 省エネとは
  - エネルギー消費の実態
  - 省エネルギー対策の概要
  - 省エネルギー対策の効果
  - 省エネルギー対策機器の概要
- **断熱改修について**
  - 断熱改修とは
  - 断熱改修と省エネ機器の相乗効果
  - 熱の流入出
  - 断熱性能基準
  - 省エネ地域区分
  - 断熱改修の概要
  - 部分断熱の検討
- **建物改修の支援制度**
- **建物改修の進め方とポイント**

・省エネルギー対策について



省エネとは

省エネって何？

省エネとは、「省エネルギー」の略です。石油や石炭、天然ガスなど、限りあるエネルギー資源がなくなってしまうことを防ぐため、エネルギーを効率よく使うことをいいます。

私たちの暮らしとエネルギー

現在の私たちの暮らしや社会は、エネルギーの消費によって成り立っています。日常生活に欠かすことのできない電気、ガス、水道はもちろん、現代社会の基礎になっている運輸、通信などもすべてエネルギーを利用しています。
さらに、食料品、衣料品など、あらゆる製品はその生産や流通の過程においてエネルギーを利用しています。
こうしてみると私たちの豊かな生活は、直接エネルギー（電気・ガス・ガソリンなど）を使用する場面だけではなく、様々な形でエネルギーを消費することによって支えられているのです。

エネルギー消費の実態

家庭エネルギー消費の実態

家庭の省エネを進めるためには、まず、家庭のエネルギー使用の実態を知ることが大切です。

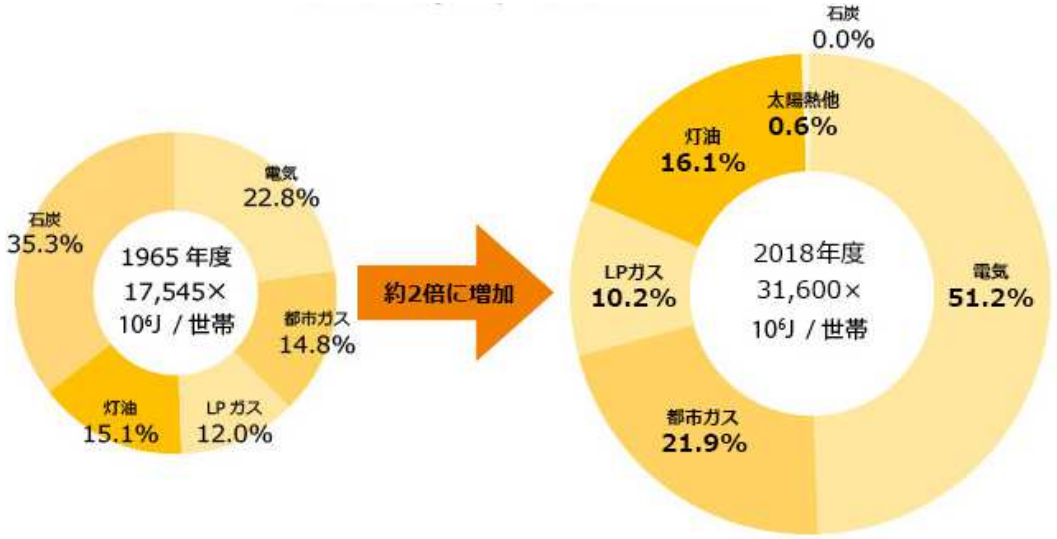
家庭の用途別エネルギー消費

1965年と比較するとエネルギー消費は2倍



家庭のエネルギー源別消費

エネルギー消費の約半分は電気

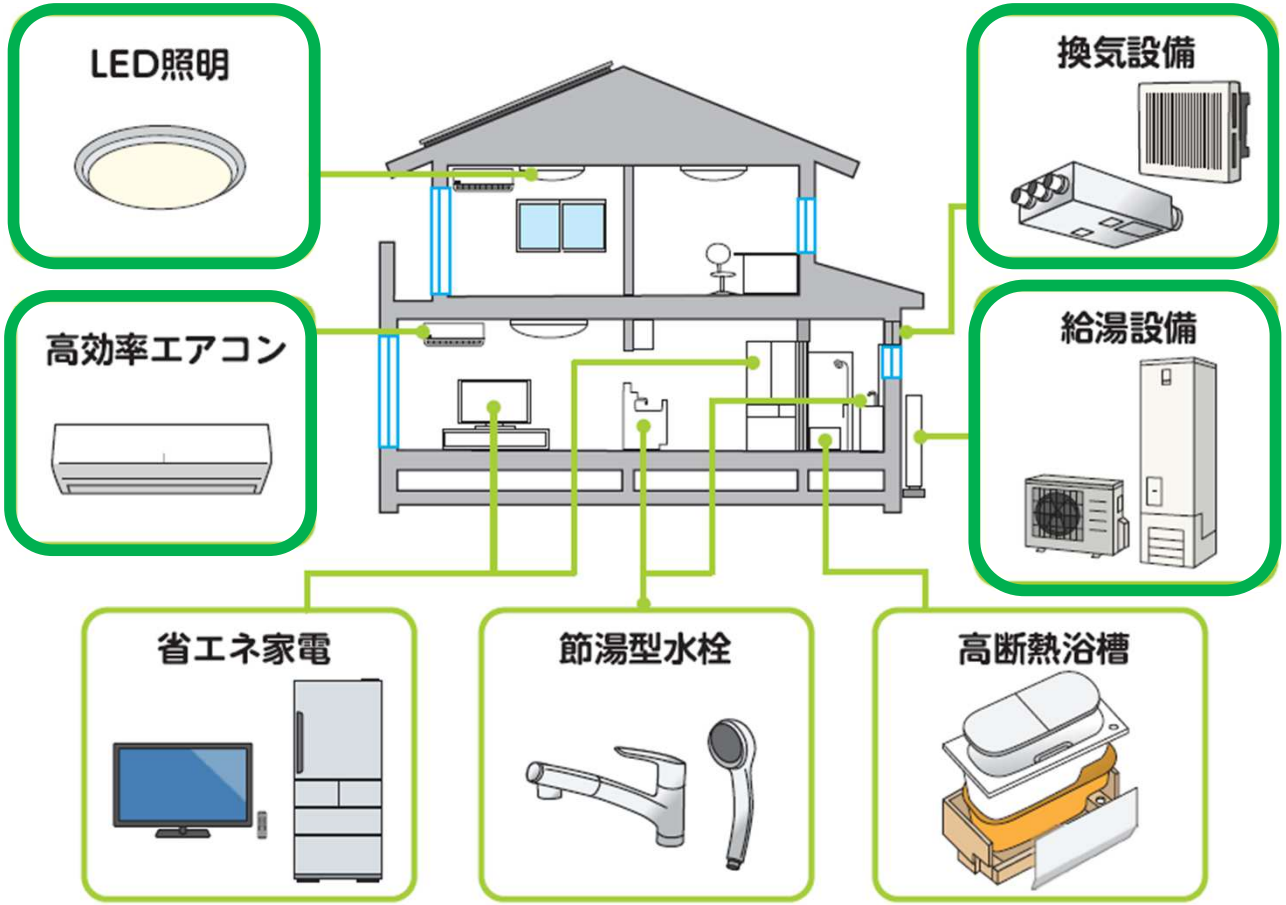


節電

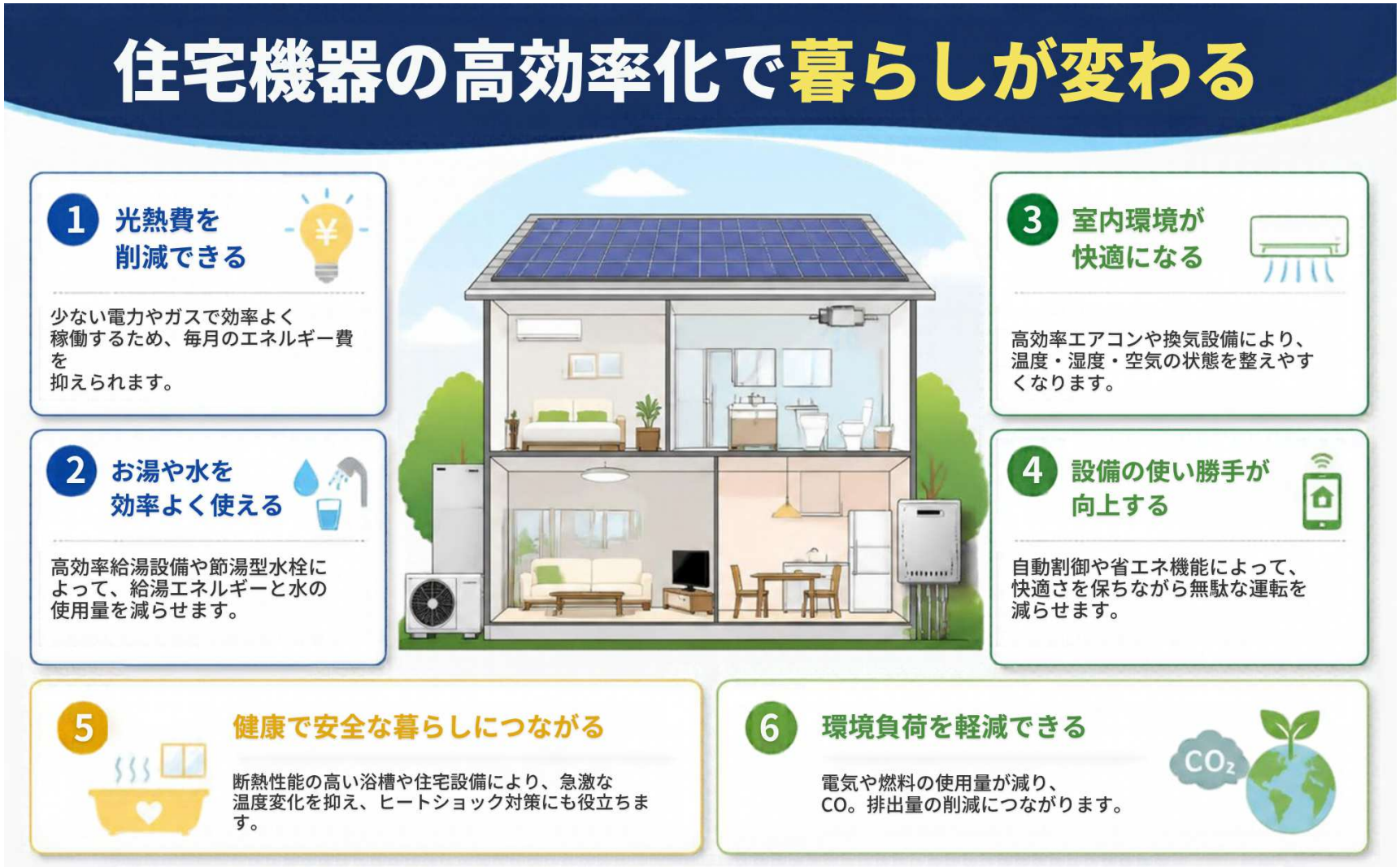
家庭のエネルギー消費の50％以上は電気です。家庭で省エネを進めるには、電気の使い方を見直す必要があります。

省エネルギー対策の概要

家庭のエネルギーの用途別使用量は、動力・照明他が最も大きく、給湯、暖房、冷房と続きます。
このため、設備機器や家電製品を省エネタイプに交換することも家庭のエネルギー使用量の削減に役立ちます。
例えば、給湯器を高効率型に替える、浴室改修時に高断熱浴槽を採用する、キッチンや浴室の水栓金具を節湯型にするなどさまざまな方法があります。また、エアコンを高効率型に替えたり、照明器具をLEDタイプにするなど家電製品の見直しも省エネ化に効果的です。



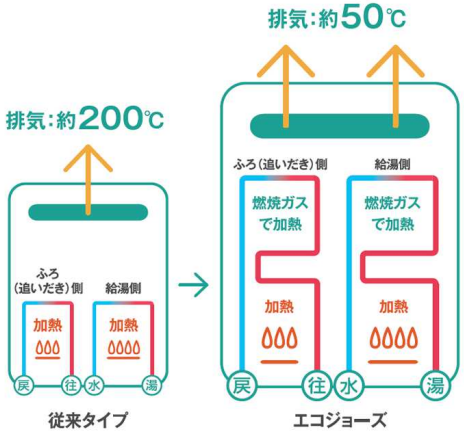
省エネルギー対策の効果



高効率給湯設備

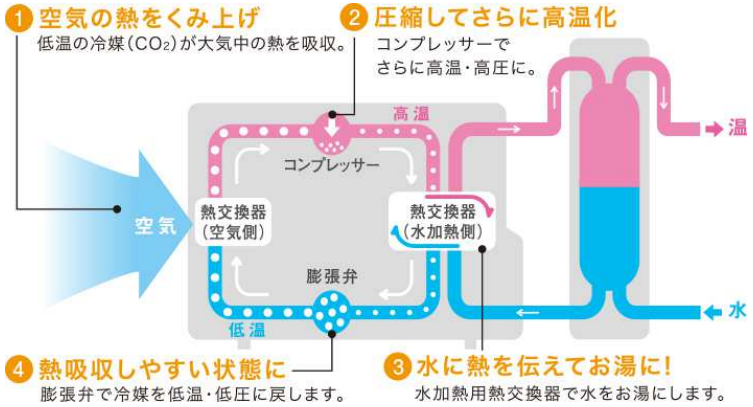
エコジョーズ
（高効率ガス給湯器）





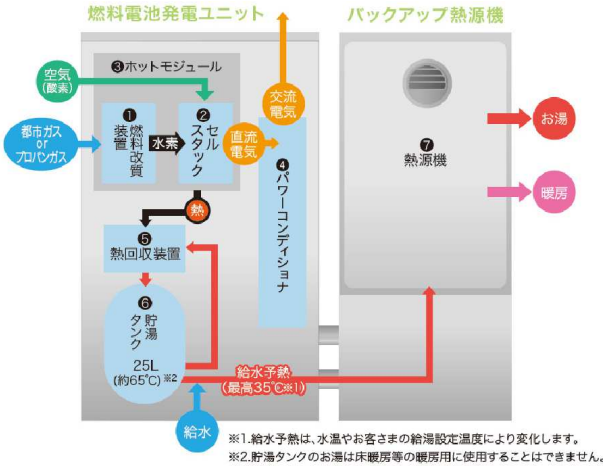
エコキュート
（ヒートポンプ給湯器）





エネファーム
（ハイブリッド給湯器）





給湯設備の比較

比較項目	エコジョーズ	エコキュート	エネファーム
主なエネルギー	都市ガスまたはLPガス	電気	都市ガスまたはLPガスと水
仕組み	排気熱を再利用する高効率ガス給湯器	ヒートポンプで空気の熱を利用して貯湯	燃料電池で発電し、発電時の熱で給湯
お湯のつくり方	必要な時に連続給湯	夜間などに沸き上げてタンクに蓄える	発電と貯湯を組み合わせる
初期費用の目安 （本体＋標準工事）	20万～55万円程度	40万～70万円程度	100万～250万円程度
概算の工事期間	半日～1日程度	1～2日程度	1～2日程度
ランニングコストの傾向	ガス料金に左右される	比較的抑えやすい	購入電力の削減効果やガス料金に 左右される
省エネ性	従来型ガス給湯器より高い	高い	高い
設置に必要なもの	ガス配管＋ドレン排水	屋外タンク＋ヒートポンプユニット	燃料電池ユニット＋貯湯ユニット
向いている住宅・家庭	設置スペースが限られる、連続給湯を重視	オール電化・太陽光発電との相性がよい	電気使用量が多い、省エネ 自家発電を重視
注意点	ガス料金と設置条件の確認	タンク設置スペースと湯切れへの配慮	設置スペース、メンテナンス 停電時の仕様確認

※タンク容量・機能、号数、配管・電気工事、設置条件などで変動します。

※既存機器の撤去、配管・電気工事、基礎工事、搬入条件、現場調査の結果などにより前後します。

住宅換気の昔と今

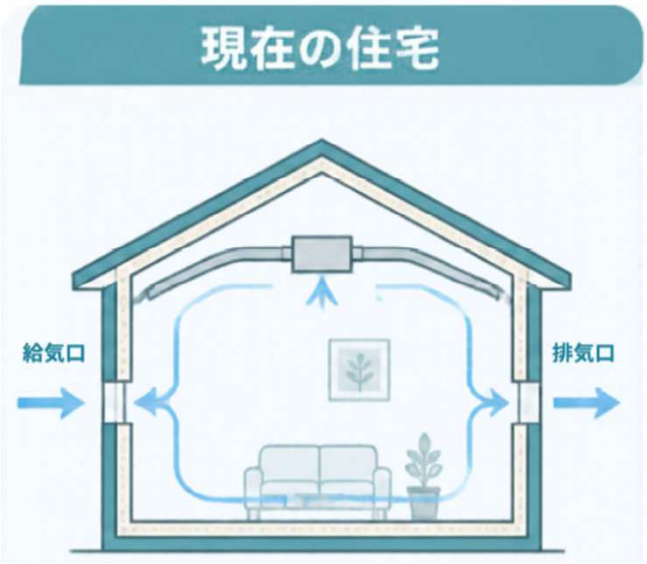
昔の住宅：建物のすき間や窓開けによって自然に空気を入れ替える自然換気方式が多く採用されていた。
その一方で、外気の影響を受けやすく、室内で暑さや寒さを感じやすいという課題があった。

※2003年（平成15年）7月1日よりシックハウス症候群対策として、居室の空気を機械的に入れ替える換気設備の設置が原則として求められるようになる。（住宅の24時間換気）

今の住宅：気密性や断熱性を高め、換気設備によって住宅内の空気の流れを計画的に管理している。
換気の考え方も、単に臭いや湿気を屋外へ排出するだけでなく、健康的な室内空気を保ちながら、冷暖房によるエネルギー消費を抑えることへと変化している。



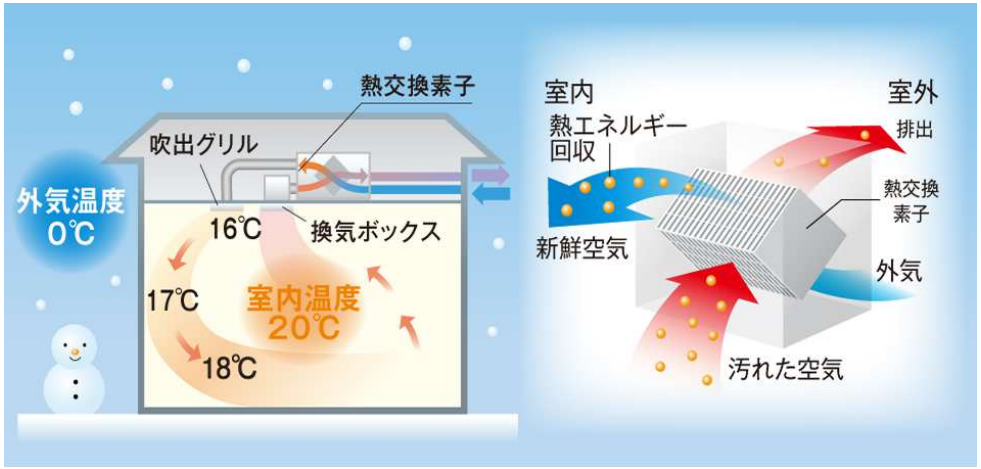




省エネ換気設備

全熱交換型換気扇





換気をしながら室内の熱と湿気を回収し、冷暖房のロスや外気による温湿度変化を抑えやすい一方で初期費用や電気代がかかり、フィルターやダクトの定期的な維持管理が必要。

工事期間：既存住宅への後付けだと約2～5日程度（天井、壁の解体復旧1週間前後）
※ダクト経路、天井・壁の解体復旧、電気工事、住宅規模により変動

工事費　：約80万円～150万円
※設置台数、住宅規模、配管経路、内装復旧の有無により変動

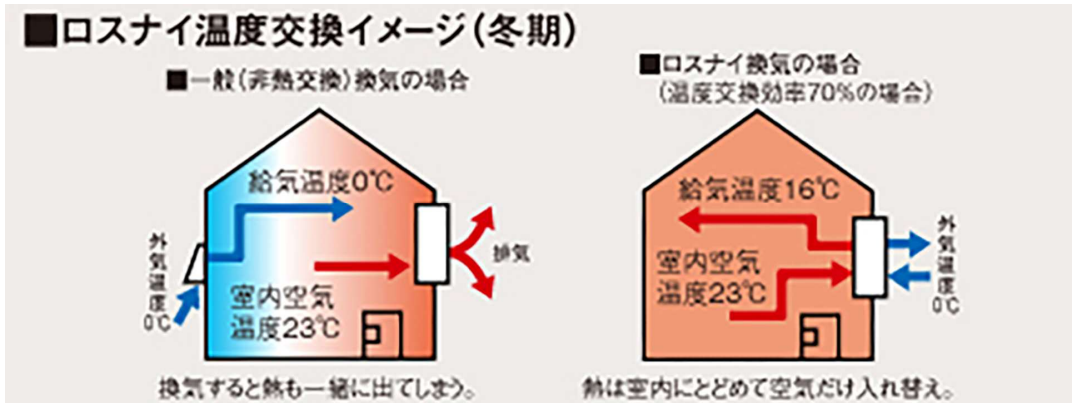
冷暖房分の電気代
5～15%程度削減可能

省エネ換気設備

ダクトレス全熱交換型換気扇







外壁に設置した小型ユニットで、熱と湿気を回収しながら換気する設備。
ダクト工事が不要でリフォームに向いている一方住宅全体を効率よく換気するには設置台数、配置風量、メンテナンスの検討が重要。

工事期間：1日程度/台

工事費　：約15万円～30万円/台

冷暖房分の電気代
5～15%程度削減可能

ルームエアコンの昔と今

～1990年代半ば：定速運転のエアコンが主流。
運転と停止を繰り返して室温を調整するため、細かな能力調整が難しく
室温が変動しやすいほか、消費電力も大きくなりやすい。

1990年代半ば～：インバーター運転のエアコンが主流に。
部屋の温度に合わせて、運転の強さを自動で変えることが出来るため
運転と停止を繰り返すエアコンよりも、電気が無駄になりにくい。

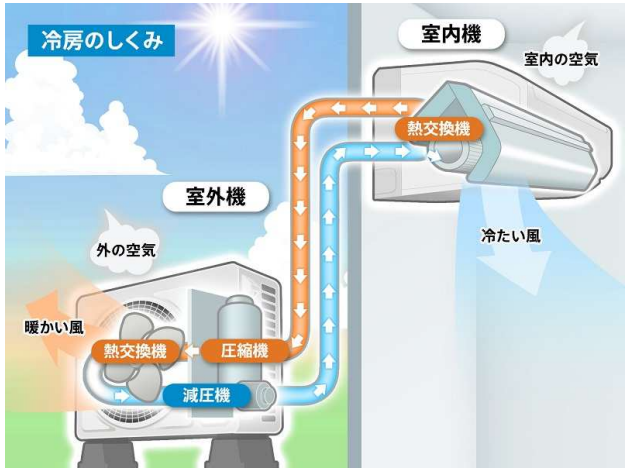
現　　在：インバーター運転のエアコンが主流。
インバーター運転に加えセンサーで人の位置や部屋の温度を確認して運転する機種もある。
熱交換器やモーター、各種部品などの性能も日々向上しており、少ない電力で更に効率よく
冷暖房できるようになっている。

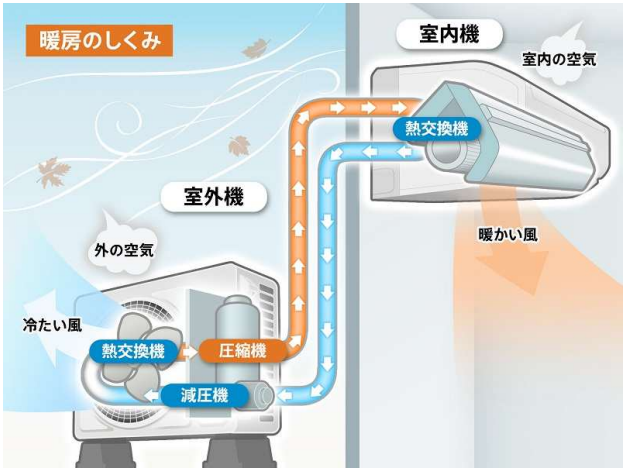


高効率空調設備

ルームエアコン







必要な部屋から段階的に導入でき、工事期間と初期費用を抑えやすい一方で、部屋ごとの温度差や室外機、配管の増加、各機器の清掃が必要になる点に注意が必要。

工事期間：半日～1日程度/台（既存機器の交換の場合）
1日程度/台（エアコン新設）

工事費　：約6万円（6畳用）～35万円（18畳用）/台
※機種のグレードや追加工事の内容によって変動。

電気代削減率（エアコン）
10年前：10～15%程度（INV）
20年前：30～40%程度（INV）
30年前：50～60%程度（定速）

照明設備の昔と今

～2010年頃まで：白熱灯や蛍光灯が主流。

白熱灯はフィラメント（線状の金属）に電気を通し、高温にして発光させる照明。
蛍光灯はガラス管の中にあるガスに電気を流して放電させ、発生した紫外線が内側の蛍光塗料に当たって光る仕組みの照明。
どちらもLEDに比べると発熱及び消費電力が大きく、寿命も短い。

2010年以降　　：LED照明が主流に。

半導体（発光ダイオード）の性質を利用して、電気が流れると半導体の内部でエネルギーが光に変換される仕組みを利用した照明。
各電機メーカーが、既存の白熱電球や蛍光灯と置き換えられる「一般電球タイプのLED」を本格的に発売したことにより、価格が下がり、省エネ意識の高まり（エコブーム）と相まって一般家庭やオフィスへ一気に浸透。
消費電力が非常に少なく、寿命も約40,000時間と蛍光灯や白熱電球に比べて圧倒的に長持ち。





照明設備の昔と今

一般照明用の蛍光ランプの製造・輸出入は 2027 年までに廃止されます

2023 年 11 月の「水銀に関する水俣条約 第５回締約国会議」において、

一般照明用[1]の蛍光ランプの製造・輸出入を、2027 年までに段階的に廃止することが決定されました。

既に使用している製品の継続使用、廃止日までに製造された製品（在庫）の売り買い及びその使用が禁止されるものではありません。

廃止の時期（蛍光ランプの種類ごとに廃止時期が異なります。）

種類	直管蛍光ランプ	環形蛍光ランプ	コンパクト形蛍光ランプ
廃止年月日	2027 年 12 月 31 日(※)	2027 年 12 月 31 日(※)	2026 年 12 月 31 日
写真（例）			

照明(LED)設備

LED照明





省エネ、長寿命、操作性向上が期待できる一方、初期費用や器具選定、工事の必要性に注意が必要。
古い蛍光灯器具は、ランプだけでなく器具ごとの交換を検討。

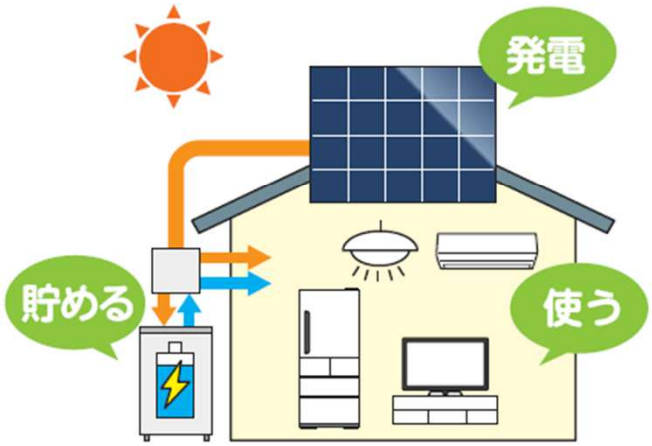
工事期間：数分程度/台（LED電球への交換）
30分～1時間程度（シーリングライト）
数時間～1日程度/台（ベースライト（直接照明））
※器具交換のみなら当日中、複数室や配線・スイッチ改修を伴う場合は1～数日程度必要

工事費　：約1000円～5000円（電球交換）/台
約1万円～3万円（シーリングライト）/台
約3万円～5万円（ベースライト）/台
約8万円～25万円（住宅全体）

電気代削減率（照明）
白熱灯→LED：50～80%程度
蛍光灯→LED：50～70%程度

太陽光発電システム

■太陽光発電と蓄電池の組合せイメージ





電気代削減や停電対策、屋根の有効活用が期待できる一方で、初期費用に加え、屋根の状態
発電量の変動、蓄電池の容量、将来の維持管理まで含めて計画することが重要。

工事期間：2週間～1ヶ月程度（契約から実際の発電開始までは手続き含めて1～3ヶ月）

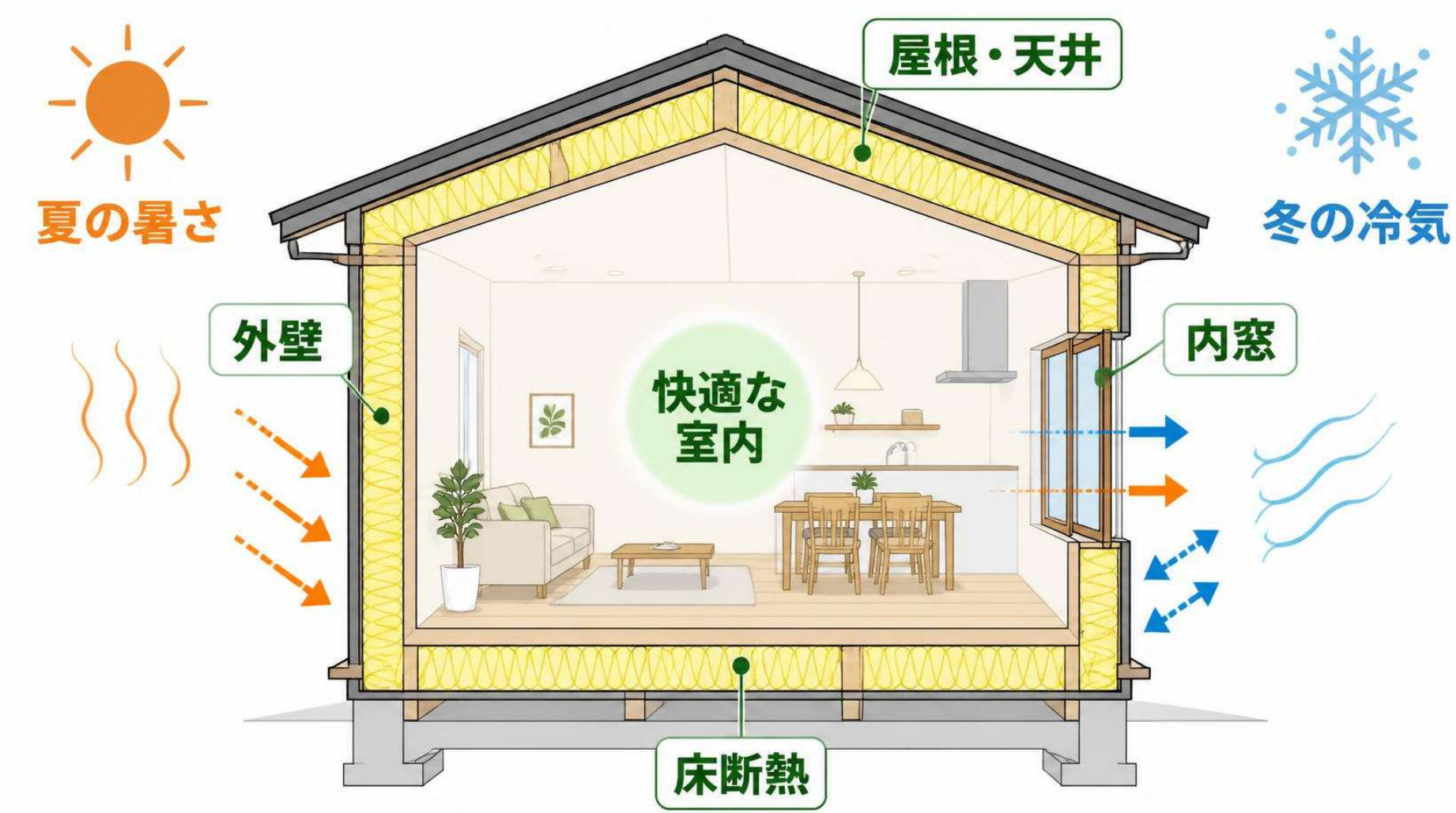
工事費　：約120万円～220万円（太陽光発電のみ）
　　約220万円～400万円（太陽光+蓄電池）
　　約250万円～500万円（太陽光+蓄電池+屋根補修）

電気代削減率（住宅全体）
太陽光：30～50%程度
太陽光+蓄電池：50～70%程度

・断熱改修について



断熱改修とは



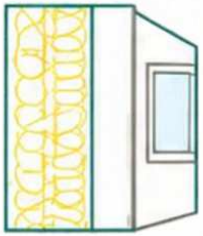
断熱改修と省エネ機器の相乗効果

断熱改修 × 省エネ機器

組み合わせることで、住まいの快適性と省エネ効果を高めます

断熱改修

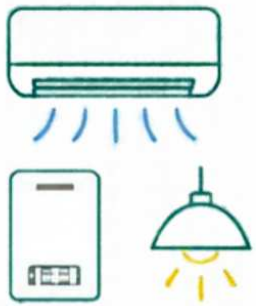
熱が逃げにくく、
外気の影響を
受けにくい
住まいへ





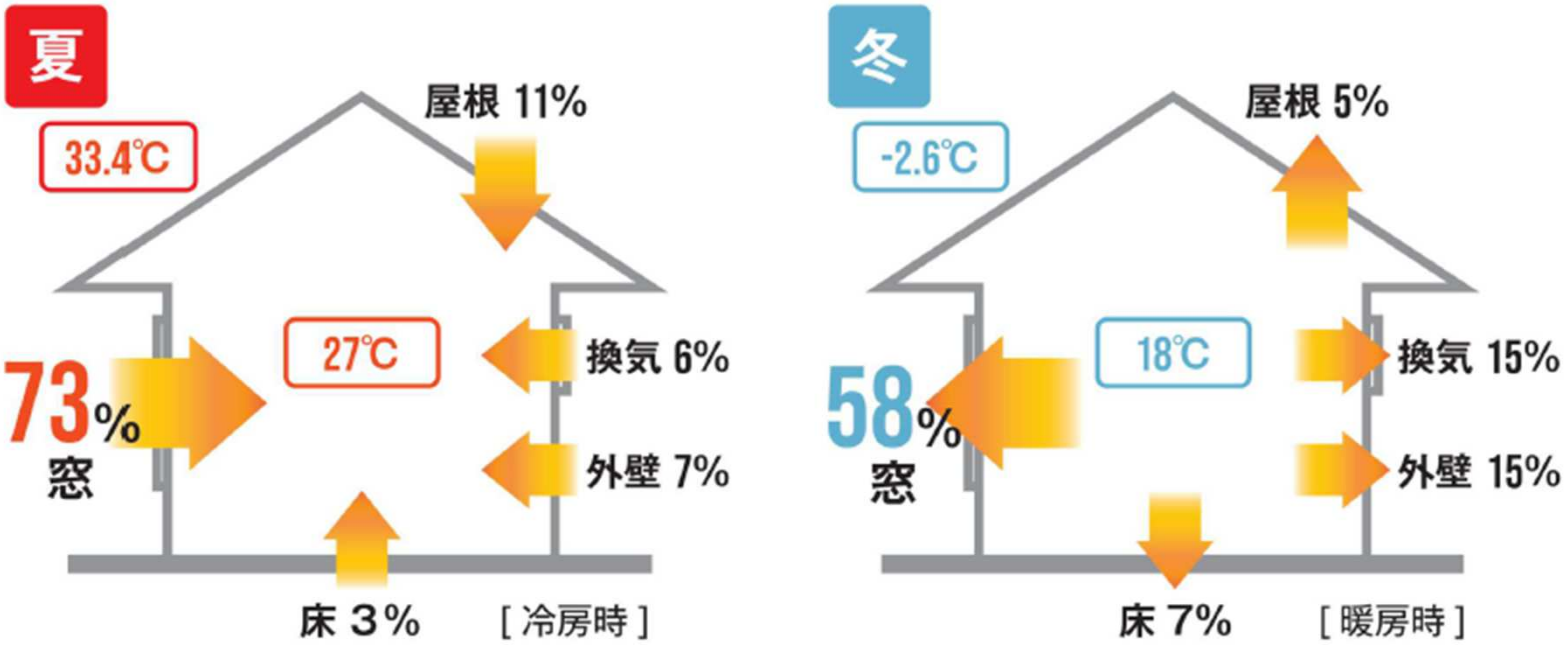
省エネ機器

少ないエネルギーで
効率よく
冷暖房・給湯・照明



熱の流入出

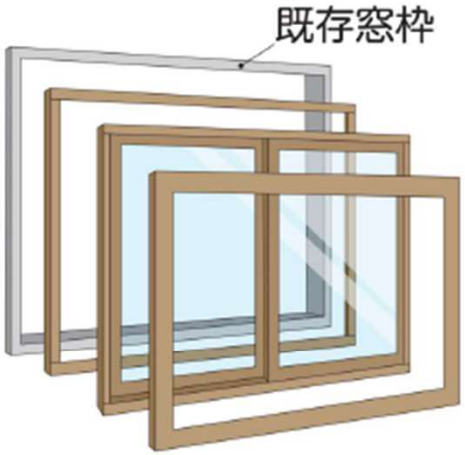
■熱の流入出の割合



出典：一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会「省エネ建材で、快適な家、健康的な家　Q&A　Q9」で公表されたデータをもとに作成

窓の断熱改修

■窓の断熱改修例



▲カバー工法
既存の窓枠の上に新しい窓をかぶせます。壁を壊す必要がなく、室内側から施工できます。



▲内窓
既存の窓の内側にもう１枚窓を取り付けます。



▲複層ガラス
２枚のガラス内にガスや乾燥空気を閉じ込めて断熱効果を高めます。

※詳細はYKKAP株式会社様セミナー資料参照。

床、壁、天井、屋根等の断熱改修

床　：床下断熱、床下吹付け断熱、床上断熱、基礎断熱
壁　：充填断熱、 内張り断熱、外張り断熱、付加断熱、吹込み断熱、吹付け断熱
天井：天井裏敷込み断熱、天井裏吹込み断熱、天井下付加断熱
屋根：屋根裏断熱、屋根外張り断熱、屋根下吹付け断熱
※既存住宅では、床下や天井裏から施工できる工法が取り組みやすく壁の断熱は
　外壁や内装のリフォームと同時に行うと効率的。

■床・壁・天井の断熱改修例



床下点検口などから床下に入り、
断熱材を施工する。



室内の仕上げ材を撤去し、
断熱材を施工する。



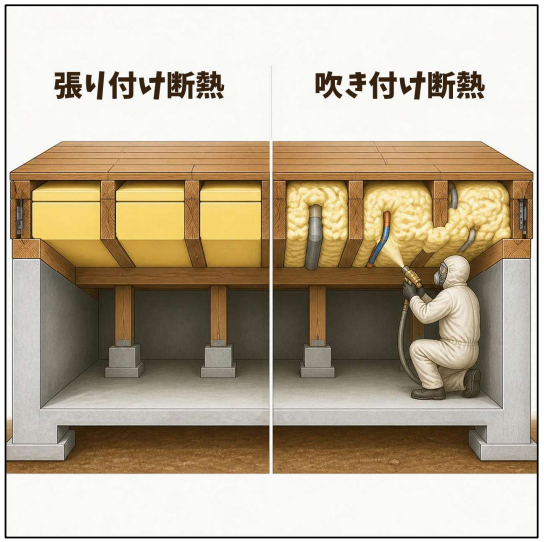
天井点検口などから天井裏に入り
断熱材を施工する。

床の断熱工法の比較

工法	施工場所	特徴	室内への影響	費用目安	向いているケース
床下張付け断熱	床の裏側・床組の間	床下から断熱材を入れる一般的な方法	小	中	床の冷たさを改善したい
床下吹付け断熱	床の裏側	発泡材で隙間を埋めやすい	小	中～高	気密性も高めたい
床上断熱	室内側の床下地の上	床を解体して断熱材を追加する	大	中～高	床の張り替えと同時に行う
基礎断熱	基礎の立ち上がり 床下周囲	基礎を断熱して床下の温度を安定させる	小～中	中～高	床下の温度や配管の凍結を改善したい

選び方のポイント

室内を解体したくない	床下断熱・床下吹付け断熱

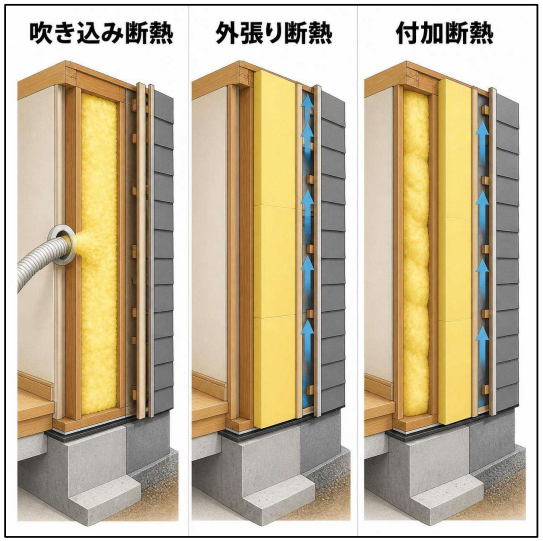


壁の断熱工法の比較

工法	施工場所	特徴	室内への影響	費用目安	向いているケース
充填断熱	柱と柱の間	壁の中に断熱材を入れる標準的な工法	中	中	内外装の改修と同時に行う
内張り断熱	室内側の壁	外壁を変えずに施工できるが部屋が少し狭くなる	大	中	外観を変えずに改修する
外張り断熱	建物の外側	熱が逃げる弱点を減らしやすく高い断熱性能を得やすい	小	高	外壁の張り替えと同時に行う
付加断熱	今ある断熱材の上	既存の断熱を活かしてさらに高断熱にできる	小～中	中～高	高断熱化を優先する
吹込み断熱	壁の中	壁を大きく壊さず施工しやすいが内部の状態確認が必要	小	中	室内をできるだけ解体したくない
吹付け断熱	壁の中・下地面	発泡材で隙間を埋めやすく気密性も高めやすい	小～中	中～高	隙間対策や気密性を重視する

選び方のポイント

室内工事を減らしたい	吹込み断熱
外壁改修と同時に行う	外張り断熱
高断熱を優先する	付加断熱

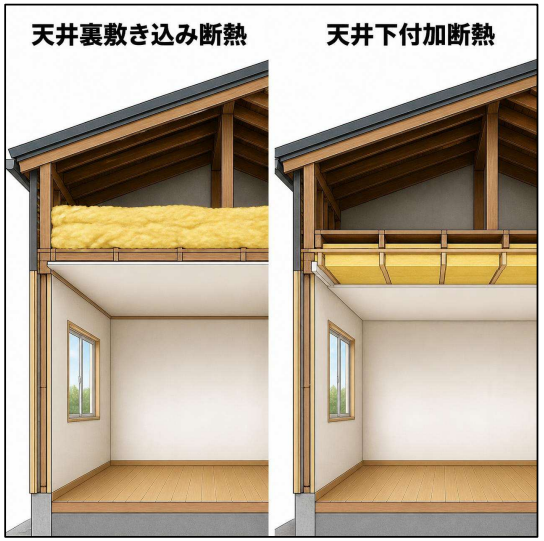


天井の断熱工法の比較

工法	施工場所	特徴	室内への影響	費用目安	向いているケース
天井裏敷込み断熱	天井裏	断熱材を敷き詰める基本的な方法	小	低～中	小屋裏を使わない住宅
天井裏吹込み断熱	天井裏	繊維系断熱材を吹き込み隙間を埋めやすい	小	中	既存天井を壊したくない
天井下付加断熱	室内側の天井	天井面に断熱層を追加する	中～大	中	天井裏に入れない

選び方のポイント

天井裏に入れない	天井下付加断熱



屋根の断熱工法の比較

工法	施工場所	特徴	室内への影響	費用目安	向いているケース
屋根裏断熱	屋根の内側 垂木の間	屋根の内側に断熱材を入れる	中	中	小屋裏を部屋として使う
屋根外張り断熱	屋根の外側	屋根材を外して断熱材を連続施工する	小	高	屋根の葺き替えと同時に行う
屋根下吹付け断熱	屋根の内側・下地面	発泡材を吹き付け隙間を埋める	中	中～高	複雑な形状や隙間を対策したい

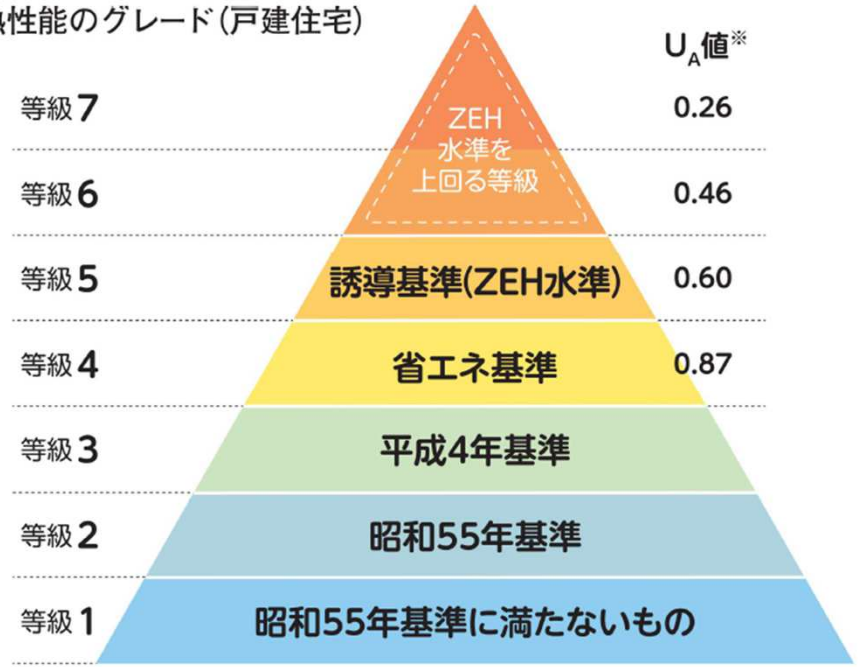
選び方のポイント

室内工事を減らしたい	屋根外張り断熱
複雑な形状や隙間に対応したい	屋根下吹付け断熱



断熱性能基準

■断熱性能のグレード(戸建住宅)



※U_A値とは断熱性能の指標で、住宅内部から外皮(床、外壁、屋根(天井)、開口部等)を通過して外部へどれ位熱が逃げているかを数値で表します。数値が小さい程、性能が高くなります。同じ等級でも地域区分により異なり、ここでは6地域について示しています。

等級5（将来的な新築住宅の最低基準）
- 壁GW(16K高)105mm、天井GW (16K) 155～200mm、床PF65～75mm
- アルミ樹脂複合サッシ+Low-E複層ガラス
- 昔の家に比べれば十分に暖かいが、冬の朝晩は寒さを感じる

等級4（新築住宅の最低基準）
- 壁GW(10K)100mm、天井GW (10K) 100～150mm、床PF25～40mm
- アルミ樹脂複合サッシ+複層ガラス
- 窓際や廊下、脱衣所などで寒さを感じやすい

等級3（1992年～1999年頃の住宅）
- 壁GW(10K)50mm、天井GW少々、床PF少々
- アルミサッシ+単板ガラス
- 冬場は廊下や洗面所が非常に冷える

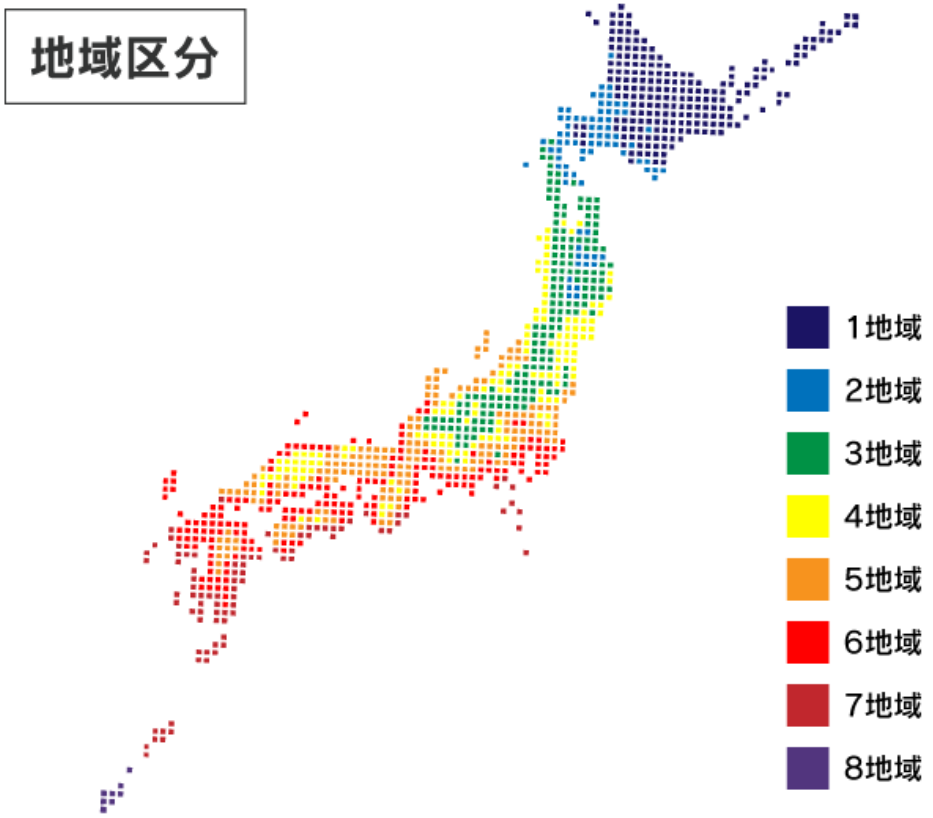
等級2（1980年～1992年頃の住宅）
- 壁GW(10K)20～30mm、天井GW少々、床無断熱
- アルミサッシ+単板ガラス
- 暖房を入れていない部屋は外気温に近い

等級1（1980年以前の住宅）
- 壁、天井、床全て無断熱
- 木サッシ、アルミサッシ+単板ガラス
- 外気温の影響をダイレクトに受ける

※地域区分6、東京、福岡などの温暖地を基準にした参考例です。

省エネ地域区分

地域区分とは日本全国の気候条件（外気温や日射量など）をもとに、住宅に求められる断熱性能や
省エネ性能の目標値を定めるために1～8の数字で分類した基準。



※福岡県は大半が省エネ地域分は6地域（福岡市は7地域）

5地域
冬は氷点下に冷え込む日もあるが、日中は比較的晴れやすい。
断熱をしっかりしないと冬の朝が寒い。

6地域
日本で最も住宅が多いエリア。冬は比較的過ごしやすいが
夏の冷房と冬の暖房の両方のバランスが必要。

7地域
年間を通じて温暖。冬の寒さより、夏の強い日差しや
高温多湿（遮熱・風通し）がメインの課題。

部分断熱の検討

ご存じですか？

「部分断熱改修」も検討しましょう

●例えばこのようなときに

①室内設備の更新を検討している場合

➡リビングのエアコン交換やキッチンリフォームと併せて断熱改修することで、快適な生活が実現します。

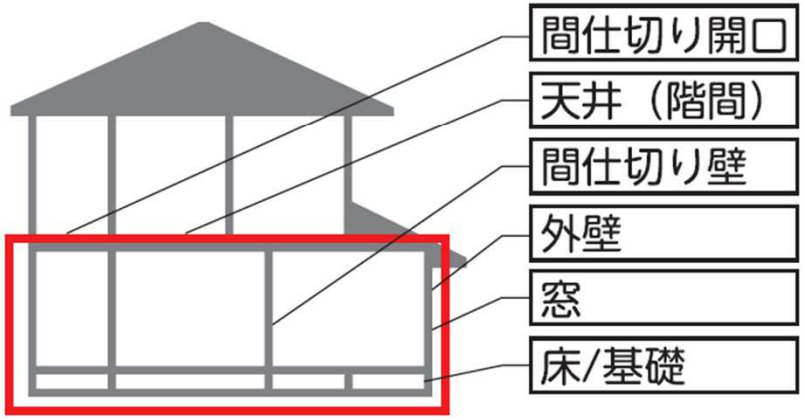
②断熱以外の改修（外装工事・耐震補強等）を検討している場合

➡外装工事・耐震補強には壁や天井等の解体を伴う場合も多いですが、この際に併せて断熱改修することで、室内の暖かさも改善します。

③世帯人数が変わり、一部の部屋を使用していない場合

➡断熱改修と併せて生活範囲を１階に集中させる（例：寝室を２階から１階に移す）等により、コンパクトで快適な暮らしにつながり、階段からの転倒リスクを抑えることもできます。

出典：国土交通省「ご自宅の中でよく使う生活空間から優先して断熱改修しませんか？ 令和６年６月」



■部分断熱改修の範囲の例

熱の出入りが大きい開口部（窓）に加え、なるべく天井、壁、床の少なくとも一部位を改修するようにしましょう。

出典：国土交通省「部分断熱改修の進め方と効果～実証事業で得られた知見～ 令和6年6月」

部分断熱の範囲

Point!

部分断熱改修の改修範囲は、改修の目的に応じて決めましょう

熱的快適性の改善、暖房費削減、ヒートショックや転倒リスクの軽減など、改修目的に応じて部分断熱改修を行う範囲を設定しましょう。

改善目的と改修対象となる部屋の例

- 暖房費削減 → 使用時間が長い部屋（リビング等）
- ヒートショックリスクの軽減 → 水回り（洗面所・浴室等）
- ヒートショックリスクの軽減 → 動線（廊下等）
- 転倒リスク軽減 → 将来の寝室候補（1階和室等）

改修範囲（赤枠の例）



※2階建て住宅の1階部分を改修する場合

部分断熱改修は、改修範囲内外に温度差が生じるため、温度差が生じた内外を頻繁に行き来することで、健康被害につながることもあります。
リビングや寝室などの「部屋」に着目するだけでなく、右図のように脱衣所や浴室、動線となる廊下も含めて、一筆書きに閉じるよう改修範囲を設定することが重要です。

出典：国土交通省「ご自宅の中でよく使う生活空間から優先して断熱改修しませんか？　令和６年６月」

部分断熱の改修事例

※福岡市の省エネ地域区分は7地域（福岡県は大半が6地域）

地域	神奈川県横浜市（6地域）
建築年	平成10年
構造	鉄骨造2階建て
居住者	夫婦二人（50代）

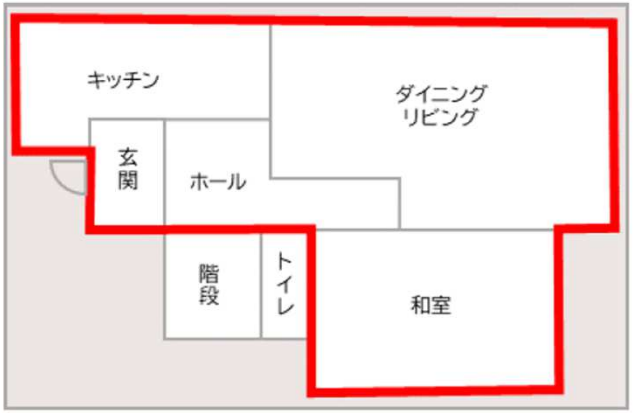
延床面積	116m² （1階：57 m²　2階：59 m²）
改修水準	等級5（誘導基準）相当
改修期間	2022年10月3日～2022年11月26日
工事費※	420万円（税込）

※断熱改修に伴う部材購入費及び工事費（解体・施工・復旧工事費等）

等級5（誘導基準）断熱仕様参考
壁GW(16K高)105mm
天井GW（16K）155～200mm
床PF65～75mm

改修状況	
窓	○
天井(階間)	○
壁(外壁・間仕切り)	○
床	○

改修面積：52m²、2階は改修なし
改修範囲：



- 改修事業者とも相談し、使用頻度が高いものの使い勝手が悪かったLDK(リビング・ダイニング・キッチン)を含む、1階の大部分を改修対象とした。
- 和室の使用頻度は日常的には低いが、こども・孫が訪れた際の客間として使うことが多く、来客の快適性向上のため改修対象とした。トイレは、直近で改装を行い、設計上の制約もあったため対象外とした。
- 改修期間中、仮住まいは行わず、主に2階で生活した。
- 今回の断熱改修で改善効果を実感したため、2階の断熱改修も検討している。

階段入口にロールスクリーンを設置



内窓（二重窓）を設置

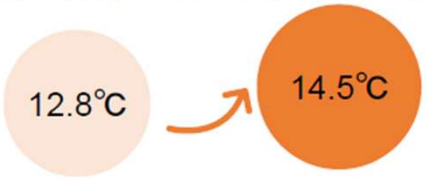


部分断熱の改修事例

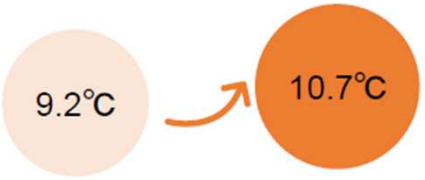
室温の変化

暖かく過ごせるようになりました

- 暖房を**使用している**部屋の平均室温



- 暖房を使用していない部屋の平均室温

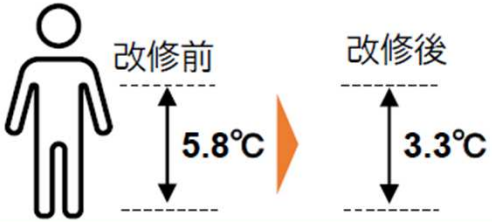


※平均室温の算出に当たっては、暖房を停止している時間帯も含みます

足元が暖かくなりました

- 高さ1.1mで測定した室温と、高さ0.3mで測定した室温の差（上下温度差）

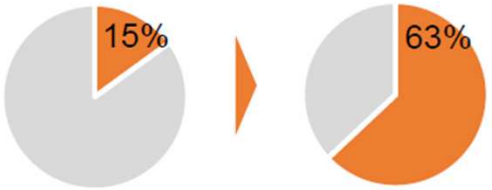
暖房を使用している部屋



暖かく感じる日が増えました

- 調査期間において、室温が常に10℃超であった日数の割合

暖房を使用している部屋



部分断熱の改修事例

体感の変化

冬も軽装で過ごせるようになりました

- 改修前後での夜間の服装の違い



改修した場所の満足度が高まりました

- 改修場所の快適性に係る居住者満足度

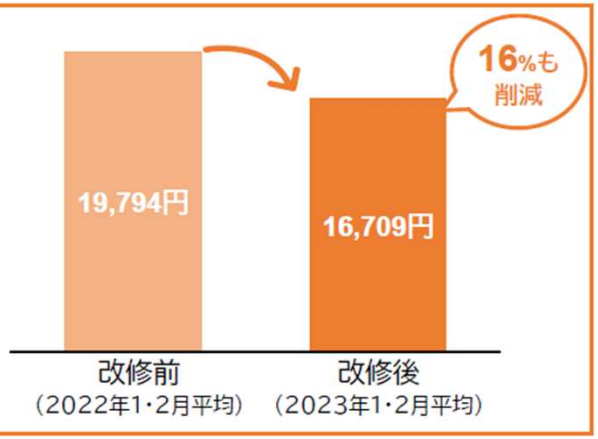


エネルギー使用量の変化

省エネが実現できました

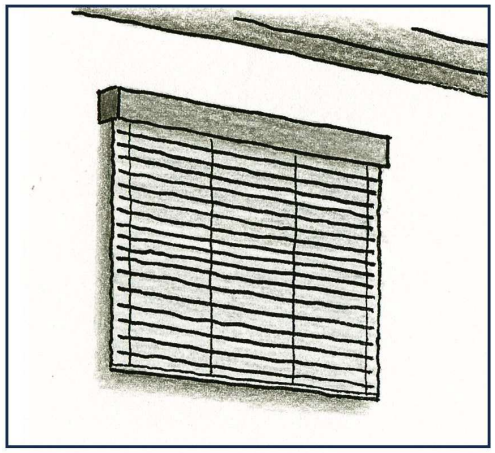
- 冬期の電力使用量が改修前と比較して減少

※光熱費は住まい方（暖房使用方法等）によっても変わるため、 場合によっては光熱費削減効果が得られない場合もあります。



※エネルギー使用量の実績値に基づき、電気料金単価：31円／kWhと設定して算出しています

日よけの設置

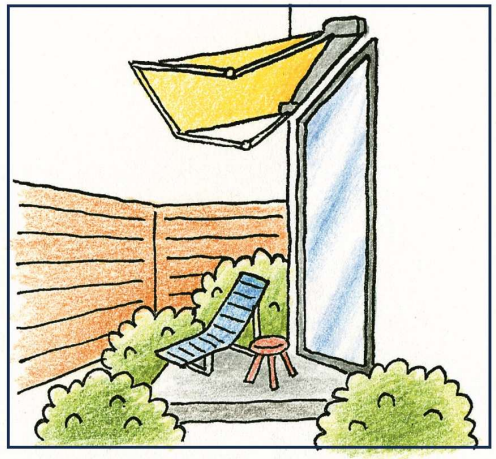


外付けブラインド

夏の日射を窓の外で遮り、冷房効率、採光、通風、プライバシーを高められる一方で、強風時の対応、初期費用、清掃や点検の手間を考慮して選ぶ必要がある。

工事期間：1窓当り1日以内（複数の窓でも1～2日程度）
※電動化、設置窓数、下地補強、足場の有無による

工事費　：約15万円～55万円/窓
※窓サイズ、ブラインド仕様による



オーニングテント

窓の外で日射を遮り、夏の暑さ、紫外線、まぶしさを抑えながらテラス空間を快適に活用できる一方で、強風、大雨時の収納清掃や乾燥、キャンバス交換の費用を考慮する必要がある。

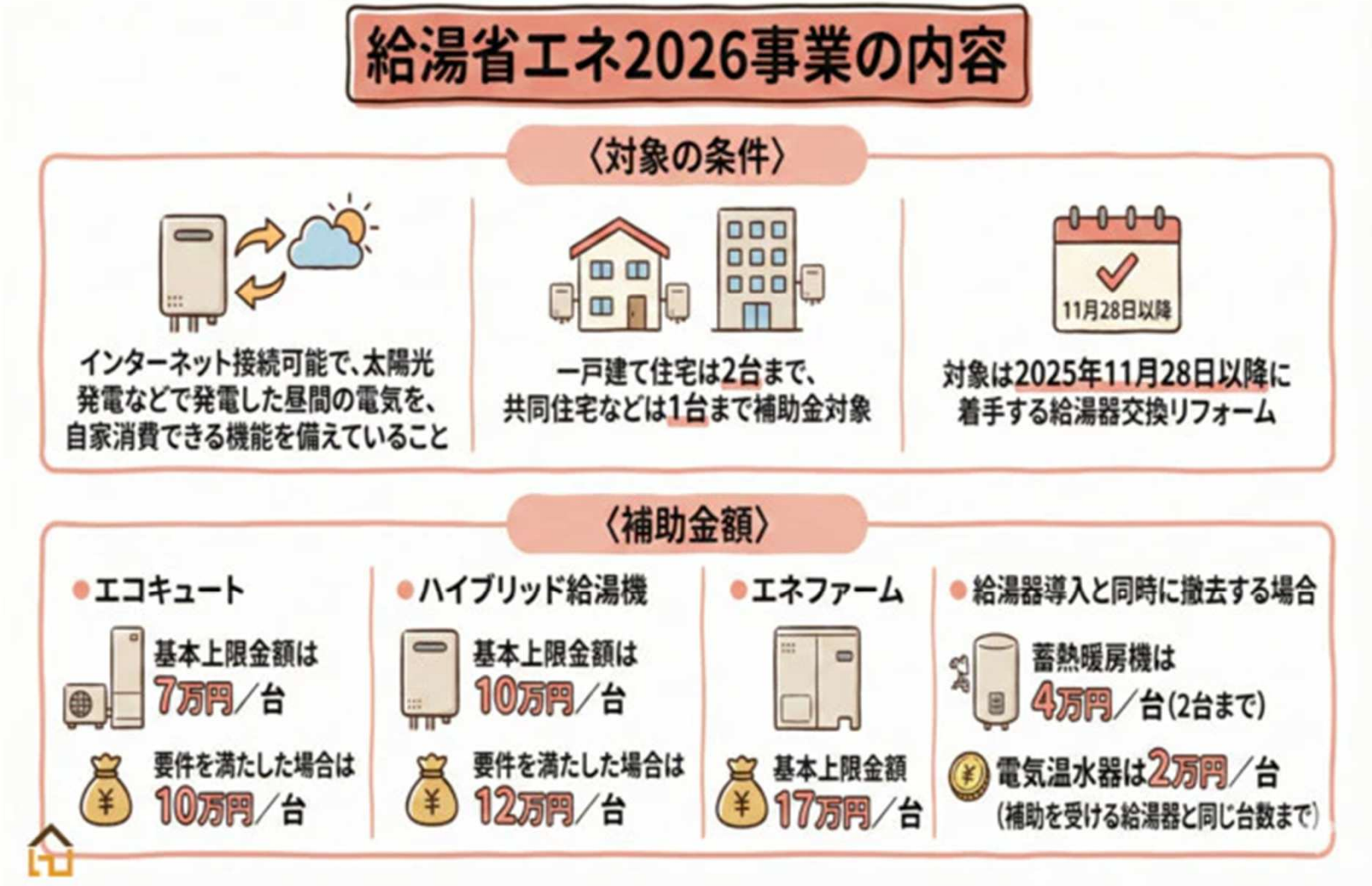
工事期間：半日～1日/台
※電動化、外壁補強、足場、複数台設置の有無による

工事費　：約20万円～40万円/ヶ所
（サイズ、手動・電動、外壁補強、電気工事、足場の有無にる）

・建物改修の支援制度



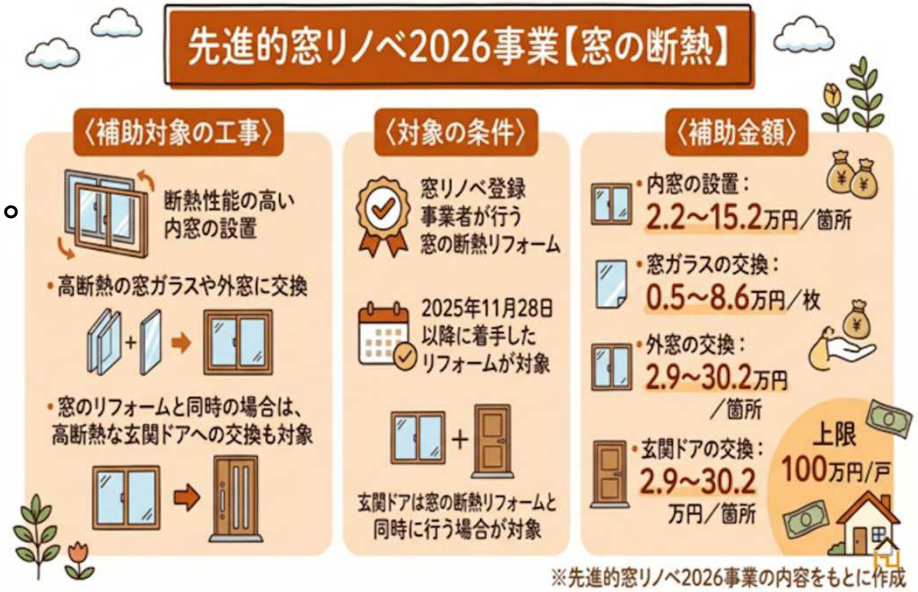
給湯省エネ2026事業（経済産業省）



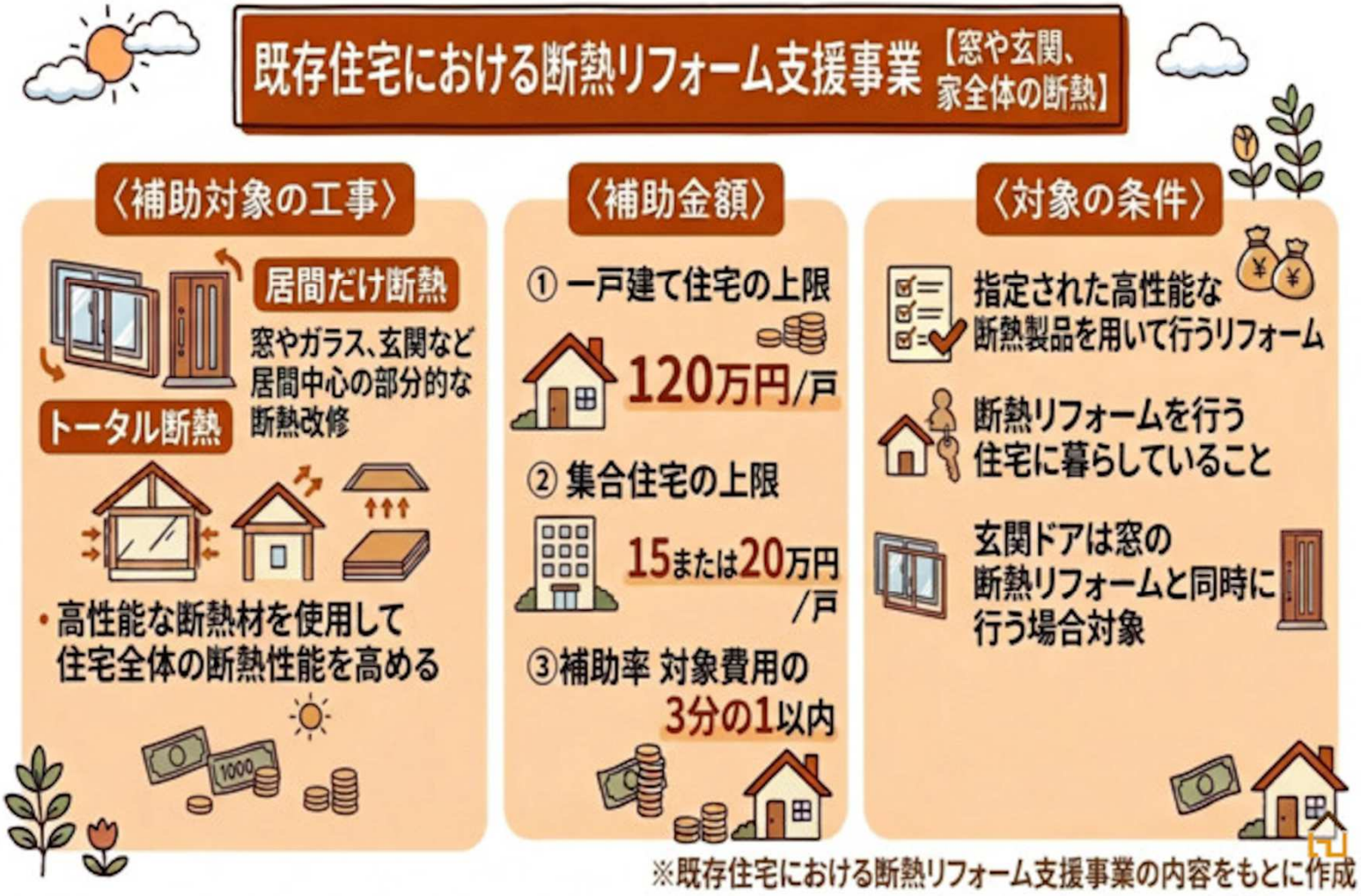
先進的窓リノベ2026事業（環境省）

■先進的窓リノベ2026事業（環境省）
高い断熱性能の窓への改修に対する補助金制度。

※概要、詳細はYKKAP株式会社様セミナー資料ください。



既存住宅の断熱リフォーム支援事業（環境省）



その他の支援制度

■みらいエコ住宅2026事業（国土交通省）

・省エネ基準を満たす新築住宅を建てる場合や、既存住宅を省エネリフォームする場合に対象となる工事費用の一部を補助する制度。

■令和8年度既存住宅のZEH、ZEH+化改修事業（経済産業省　環境省）

・年間の一次エネルギー消費量が正味でゼロとなることを目指した住宅（ZEH）となる戸建住宅、集合住宅の省エネ診断及び改修を行うことを対応とした事業。

■その他

・子育て支援型共同住宅推進事業（国土交通省）
・住宅、建築物安全ストック形成事業（国土交通省）
・介護保険法にもとづく受託改修費の支給（厚生労働省）

※支援制度は改修内容や状況によって異なるほか、ご紹介した制度以外にも活用可能な制度がある場合もございます。
詳細は「住宅リフォームガイドブック（P39～）」の掲載概要、ホームページ案内などをご確認いただくか、専用窓口へお問い合わせのうえご検討頂ければと思います。

・建物改修の進め方とポイント



進め方とポイント

準備から依頼先選びまで、最初に確認すること

1 事前準備

- 要望や老朽箇所・不具合を整理
- 目的と優先順位を決める
- 戸建て・マンションの違いを情報収集
- 予算の目安と補助金・減税・融資を確認



まずは困っていることと、
実現したいことを書き出します。
優先順位と予算を先に決めると、
相談が進めやすくなります。

2 見積の依頼

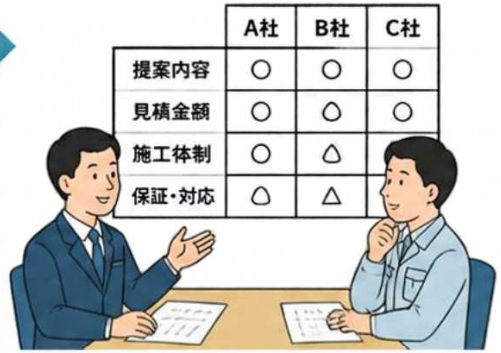
- 建物状況調査を検討
- 複数の業者に依頼
- 支払い可能限度額を確認
- リフォーム瑕疵保険を検討



現状を確認し、
同じ条件で複数社から
見積を取りましょう。

3 依頼先を決める

- 提案内容と見積書を比較
- 施工体制や担当者を確認
- 契約条件を確認



金額だけでなく、提案の内容、
説明の分かりやすさ、
工事後の対応も比較します。

ポイント：見積の条件をそろえて比較する

進め方とポイント

工事内容と契約を具体的に決める

4 工事内容の詳細を決める

- 家具や家電の配置を検討
- ショールームで実物を確認
- 見積を調整し資金計画を立てる
- 支援制度の利用を確認・手続き
- 工事前のチェックポイントを確認

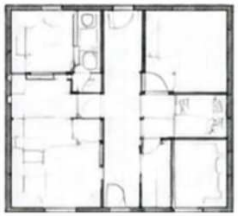
完成後の暮らしをイメージし、設備の大きさや使い勝手を実物で確認します。変更点は工事前に整理しましょう。



ショールーム



家具配置



間取り図

5 契約する

- 必要な契約書類と内容を確認
- 工事範囲・金額・工期を確認
- 契約書を取り交わす

口頭の約束だけにせず、工事内容、金額、工期、支払い条件を契約書で確認します。



ポイント：追加・変更が出たら、内容と金額を必ず書面で確認

進め方とポイント

工事中の確認から引渡しまで

6 工事中の確認

- 現場責任者と定期的に打ち合わせ
- 工事中のチェックポイントを確認
- 追加や変更があるときは書面に残す



予定どおり進んでいるかを確認し、変更が必要な場合は、内容・費用・工期を記録します。

7 引渡し・完了

- 支援制度などの手続きを確認
- 竣工検査を行う
- 契約書・図面・保証書を保管
- アフターメンテナンスを確認



完成後は不具合がないか確認し、必要書類と保証内容を受け取り、今後の点検方法を確認します。

戸建て・マンション、建物の状態、工事内容により確認事項は異なります。
複数の業者から提案と見積を取り、内容を比較して進めましょう。

完了前チェック：
竣工検査・書類・保証・メンテナンス

おわりに



まとめ

本日は「建物改修の省エネルギー対策」について解説してまいりました。

お住まいの省エネルギー対策を行うことにより、毎月の電気代やガス代を安くするだけでなく
「夏涼しく、冬暖かい快適な暮らし」や「ご家族の健康を守ること」にもつながります。
国や自治体の補助金を上手に使いながら、窓の断熱やエアコン、給湯器などを見直すことで
将来の光熱費をぐっと抑え、家自体の価値も高めることができます。
大切なマイホームで長く安心して暮らし続けるために、ぜひできるところから
省エネルギー対策について考えてみてください。
今日のお話が、これからの住まいづくりを見直す「はじめの一歩」になれば幸いです。

ご清聴ありがとうございました。